

たまがわの風

平成 23 年4月5日

大阪府立たまがわ高等支援学校

校長室発

NO. 1

校長室からの情報発信を始めるにあたり、いろいろとネーミングを考えていましたが、校歌の2番の一節「♪たまがわの風にのせて伝えよう♪」から引用し「たまがわの風」としました。

4月4日(月) 職員会議 年度当初の方針表明

- 大阪で初めての、知的障がいのある生徒の、就労による社会的自立を目標とした支援学校として、選抜を実施するという、これまでの大阪では、考えられないスタイルで、開校したたまがわ高等支援学校は、初代の原田校長を中心に、教職員のご尽力により、0からのスタートの中、多くの困難を乗り越え基礎を固められ、2代森校長と教職員に、その精神は引き継がれ、この5年間、自他共に認める、素晴らしい成果を挙げてこられました。
- この、たまがわ高等支援学校の成果は、たまがわ高等支援学校に在籍する生徒の夢と希望の実現にとどまらず、今後、4地域で開校する支援教育に携わる人々の念願であった新校開校とその新校に新たな高等支援学校を併設するプランや全ての知的障がい支援学校に職業コースを設置するという教育委員会の方針に影響し、財政論議においても大きな後押しの力となりました。
- これは、私自身がその論議の中で政策を進めてきた人間ですから、ゆるぎない事実です。
- 私は、新たな高等支援学校や職業コースの設置に異論を唱える人々に、これまで後期中等教育のステージで、障がい種別でしか学校を選択できなかった全ての障がいのある生徒たちに、高等学校はもとより、自立支援校や共生推進教室も含めより多様な選択肢を提供することを目指しています。重度は？軽度は？というような問題ではなく、全てのフィールドにおいて、支援学校の教職員は幼児・児童・生徒一人ひとりの夢と希望の実現に全力を尽くしていますと答えてきましたし、そう信じています。
- しかしながら、昨今の社会情勢や今回の震災の影響は、今後のたまがわ高等支援学校のシステムの維持に多くの課題を投げかけています。
- 障がい者理解や障がい者施策における社会の変化や大阪で初めての学校という追い風は、もはや期待できない状況です。
- しかし、夢と希望を抱いて、本校を目指してやってきた生徒たちを目の前にして、立ち止まったり、後退することは許されません。
- 教育のプロは、先生方です。私は、経営者であり責任者として、私ができる、私がしなければならない仕事として、同じ夢を持つ、プロの先生方の支援をいたします。役割分担と責任の所在を明確にし、チームとしての力を高めたいと思っています。
- 5年を経て、マイナーチェンジや場合によってはフルチェンジをしなければならないシステムや組織があるのではないのでしょうか？大いに意見の交換をし論議し、次の5年を見据えたたまがわ高等支援学校をみなさんとともに構築したいと思っています。
- 私は、前任の守口支援学校でも常に申し上げていました。これが良いと解っていながら、次年度

からとかゆっくり時間をかけてとか言われる意見に対して、生徒には3年しか時間がありません。次年度検討と言う言葉は、1年半を費やすと言うことです。それでは、生徒の大切な3年間の半分が終わってしまいますと。必要なら年度途中でも、学期間でも取り組みましょう。保護者や設置者への説明が必要ならいつでもさせていただきます。

- 全てのものに当てはめているわけではありません。適切なスピードを見極めようと言うことです。
- しばらくは、見学者のようにウロウロすることと思います。気軽に色々な話を聞かせてください。私も色々質問することと思います。面倒くさがらず教えてください。機会があるたびにこれからも、お話はさせていただこうと思っております。